文学館だより

令和７年１０月１日
若山牧水記念文学館
TEL　0982－68－9511
文責　日高　第114号

＝若山牧水生誕140年・若山牧水記念文学館開館20年Memorial Year＝

牧水生誕140年記念　第75回牧水祭　生誕の地に集う

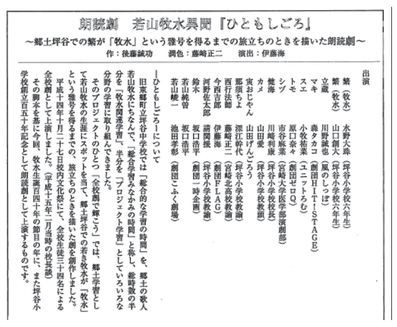
晴天に恵まれ、第75回牧水祭を迎えました。牧水の命日9月17日に開催されている牧水祭。今年は三連休明けの平日開催にも関わらず、170名を超える方々にお越しいただきました。遠くは群馬県みなかみ町牧水会の方々でした。

第1部は、牧水生家横の夫婦歌碑前で歌碑祭が行われ、坪谷在住岩下富男氏による牧水の短歌朗詠に始まり、東郷学園9年生2人による献酒（写真左）、続いて主催者、若山家親族代表、来賓、団体代表、地元代表と献酒が続きました。

第2部は、ふるさとの家に場所を移して牧水を偲ぶ会の開催です。坪谷小学校6年生2人による牧水の短歌朗詠（写真中央）に始まり、今年のメインは、創立150年を迎えた坪谷小学校児童、先生方を交えた朗読劇でした（写真右）。大人に交じっての演技は決して容易ではなかったと思いますが、一生懸命練習した成果が発揮されていたと思いました。いかがだったでしょうか。（右資料は牧水祭パンフレットより）

その後、伊藤先生による講話、懇談会と時は流れていきました。

中庭では茶道裏千家淡交会の皆さまの野点ふるまいも行われ、暑い中ありがとうございました。



朗読劇　若山牧水異聞『ひともしごろ』

～郷土坪谷での繁が「牧水」という強号を得るまでの旅立ちものときを描いた朗読劇～

作：後藤誠功　調色：藤崎正二　演出：伊藤海

出演

繁（牧水）　赤野大輝（坪谷小学校六年生）
繁（牧水）　山口眞大（坪谷小学校六年生）
立蔵　川野誠也（風のしっぽ）
マキ　奇水琴美（高田ＨＩＴＯＳＵＧＩ）
スエ　高田奈々（高田ＨＩＴＯＳＵＧＩ）
トモ　小牧芳恵（高田ＨＩＴＯＳＵＧＩ）
シゾ　東谷陸業（宮崎大学医学部演劇部）
幾海　川端剛誠（坪谷小学校校長）
カメおじいさん　山田博人（坪谷小学校教諭）
寅おじちゃん　山田げんこう（坪谷小学校教諭）
郵便屋　渋江敏代（坪谷小学校教諭）
西行法師　藤崎正二（宮崎大学高校教諭）
今野東太郎　藤崎誠（宮崎大学高校教諭）
河野宗太郎　藤崎誠　坂口浩平（高校一年生）
鈴木　藤崎誠　坂口浩平（高校一年生）
若山繁雄　坂口浩平（高校一年生）
若山繁一　池田孝都（高田こども劇場）

―ひともしごろ―について

田園郷町立坪谷中学校では「総合的な学習の時間」を、郷土の歌人若山牧水にちなんで、「繁自身がなぞかみの時間」と称し、総時数の半分を、「牧水自身がなぞ」プロジェクト学習」としていろいろなアプローチをしてきました。そのプロジェクトのひとつ（全校朗読「繁」）では、郷土坪谷の若き牧水が「牧水」という強号を得るまでの「旅立ちものときを描いた朗読劇を創作しました。

平成十四年十月二十七日（日）に、文化祭（坪谷小学校）で、全校生徒三十四名による全校朗読劇として演じました。「繁」は、「牧水」の若き姿を演じました。

全校朗読劇は、坪谷小学校の校歌「坪谷小学校百年の歌」の作詞者である若山牧水の生誕百五十年記念として、朗読劇として、この郷土坪谷小学校の歌を演じるものです。

牧水生誕140年記念特別企画　「①ゆかりの地めぐり」「②記念シンポジウム」「③交流会」　開催いたしました

【ゆかりの地めぐり】（写真 左）

9月16日（火）、参加者41名乗車。牧水ゆかりの地めぐりに出発。御鉾ヶ浦歌碑（写真上）、馬ヶ背歌碑（写真中）を見学した後、美々津に残る牧水の祖母カメの実家を見学。そして、牧水生家、若山牧水記念文学館（写真下）を見学した。案内は文学館職員他、観光ボランティアガイドが行った。

【記念シンポジウム】（写真 右）

第1部　講演『牧水は今でも新しい』　講師　伊藤一彦

◎昭和50年前後から新しい牧水論が論じられ始めた。
　大岡　信　『若山牧水―流浪する魂の歌』
　佐佐木幸綱『鳥の翼』
　大悟法利雄『若山牧水伝』

◎若山牧水全歌集　伊藤一彦編　若山牧水論　P540～

第2部　シンポジウム

伊藤一彦先生、歌人乃上あつこさん、歌人久永草太さんがそれぞれ引いた牧水の歌を挙げながら牧水の魅力、感性に迫った。テーマごとに迫る牧水の感受性の鋭さ、豊かさといったものに改めて気づかされた。

企画展「繁誕生」始まる　10月4日～12月28日

牧水生誕140年、文学館開館20年を記念して開催している企画展「牧水43年の生涯～没後100年の軌跡を辿る」が第2期を迎えました。祖父健海が坪谷の地を選び若山医院を開業するまでを追った第1期「日向若山家の歴史」を受け、いよいよ繁が誕生します。

第1期	「日向若山家の歴史」	会期終了しました
第2期	**「繁誕生」**	**10月4日～12月28日　※月曜日は休館です。**
第3期	「牧水誕生」	令和8年3月6日～ 5月31日

第2期　「繁誕生」

坪谷で生を受け、幼少期を過ごした坪谷時代にスポットを当て、坪谷小学校卒業までの「繁」少年の姿を追います。

繁少年の誕生から成長を見届けてきた家族はもとより、「番所の阿母（おっかあ）」「3人の叔父」らの関わりにも注目です。普段目にできない貴重な資料も数多く展示しています。歌人牧水が坪谷の地で生を受けてから幼少期までをどうぞご堪能ください。

右写真は繁誕生を祝った節句幟で、高さ5メートルにもおよびます。第1展示室で実物をご覧いただけます。

文学館では、今年から没後100年までの4年間を牧水メモリアルイヤーズとしてまだまだこれからも企画立案していきます。

日向の歌姫 小田加奈子さんが 岡山県哲西町で「幾山河～」を歌う

若山牧水生誕140年、若山牧水記念文学館開館20年を記念して、5月に当文学館で小田加奈子コンサートを開催した。詳細は文学館だより6月号 第110号をご覧いただきたい。

コンサートを終え、小田さんの友人が、「岡山県哲西町にある牧水歌碑の前で、小田さんに『幾山河～』を歌ってもらいたい。」「牧水生誕140年の今年、開催することに意義がある。」と立案。10月26日（日）開催の運びとなった。

牧水は早稲田大学4年生の夏休み、帰省途中に中国地方に立ち寄り、この歌を詠んでいる。

けふもまた心の鉦を打ち鳴し打ち鳴しつつあくがれて行く
幾山河越えさり行かば寂しさのはてなむ国ぞ今日も旅ゆく

岡山県新見市哲西町にある二本松公園には、「幾山河～」の歌碑が建てられており、この地で小田加奈子さんは「幾山河～」を歌う。

（小田加奈子さんには、前述牧水生誕140年記念特別企画③「交流会」アトラクションにて、「幾山河～」「坪谷慕情」を歌っていただいたことを追記しておく。）

牧水先生の一首

折に触れて出会う一首を紹介しています

秋の夜栗の話のなかにしてふとふるさとの母おもふかな

あきのよる　くりのはなしの　なかにして　ふとふるさとの　ははおもうかな

大正2年秋の詠草。父立蔵の急病から死去で約10ヶ月を故郷東郷町坪谷で過ごし、6月末に母の許しを得て上京。小石川区大塚窪町に一戸を構え、信州から妻子を呼び寄せる。28歳。

故郷の母マキは65歳。幼年のころの栗拾いや、母に連れられて山に行ったことを思い出すこともあったようだ。

わが火鉢静かに炭の火となりゆくかたへによりて栗をやくなり

は妻喜志子の歌。　（夕刊デイリー　牧水の歌　参照）

収蔵資料から

其の103　中村端宛絵葉書

【執筆日】大正10年10月15日
【宛　先】埴科郡東條村　中村端様
【差出人】上高地にて　牧水
【絵　柄】（日本アルプス）上高地温泉（海抜五千尺）

牧水は、ここ数年悪くしている胃腸に効くと友人に勧められ、大正１０年秋、長野県安曇の白骨温泉へ出かけます。滞在中、松本から歌仲間の中村端（柊花）が訪ねて来ます。

１０月１５日、牧水は案内者と共に温泉を発ち、上高地に向かい一泊。北アルプスの山々を仰ぎ見て感動し、

わが命かなしくもあるか天地の
　かゝるながめにめぐりあひつつ

またや来むけふこのまゝにゐてや行かむ
　われの命のたのみがたきに

の二首を書き添え、中村に絵葉書を出しています。一首目は改作され、それぞれ歌集『山桜の歌』に収録されています。

（参照『若山牧水伝』）

牧水歌碑めぐり

其の103　臥牛農業担い手センター（岩手県）

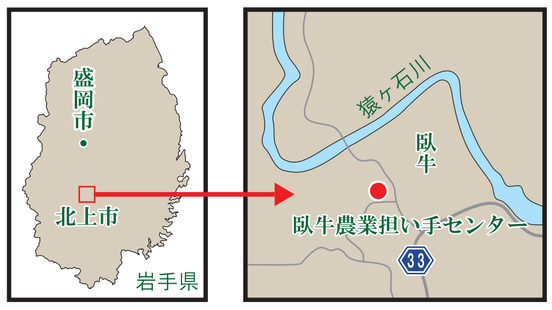
平成４年建立

しらたまの歯にしみとほる秋の夜の
酒はしづかに飲むべかりけり　牧水

悲とりゐハ朝こそよけれわか竹の
露ふりこほ春風に吹かれて　喜志子

大正１５年、牧水は雑誌『詩歌時代』を刊行しましたが、あえなく失敗し大きな負債を抱えてしまいます。負債返済のためには揮毫行脚しかなく、牧水は夫人同伴で北海道方面に旅立ちます。その帰り、岩手県の創作社友福地房志宅に泊まっています。

この歌は明治４３年、牧水が信州小諸の田村病院に滞在中の作ですが、更木町は牧水来訪を記念し、福地家で書いた筆蹟を使って歌碑を建てました。左には喜志子の歌も刻まれています。



参照／『若山牧水全国歌碑集』

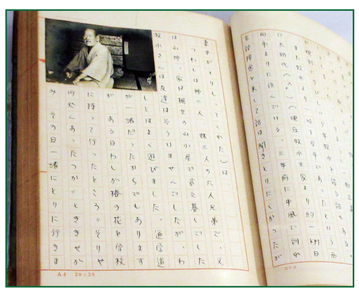
企画展『牧水43年の生涯』

第2期「繁誕生」始まりました

会期　１０月４日（土）～１２月２８日（日）

牧水生誕１４０年を迎えた本年から、没後１００年を迎える令和１０年にかけて、牧水の生涯と現在まで続く牧水顕彰を紹介する企画展を開催しています。

１０月からは第２期「**繁誕生**」と題し、誕生から坪谷尋常小学校を卒業するまで、繁（牧水）の自然観がふるさと坪谷でどのように育まれてきたのかを辿ります。



写真下は、大坪弥太郎氏（現美郷町教育長の父）の大学卒業論文です。牧水関連書籍のほか、昭和30年代に存命だった牧水ゆかりの人々から聞き取った情報をもとに執筆されています。

その中から、坪谷尋常小学校で一学級下であった西口太助が語る牧水の思い出を紹介しています。

若山牧水記念文学館
〒883-0211　宮崎県日向市東郷町坪谷1271番地
<ホームページはこちらから>

■利用案内■
【開館時間】９：００～１７：００（入館は１６：３０まで）
【休 館 日】月曜日（祝日は除く）　年末年始（１２月２９日～１月３日）
【入 館 料】小・中学生／１００円　高校生以上／３１０円（２０名以上の団体は２割引）
【お問合せ】TEL　0982-68-9511 FAX　0982-68-9512【公式ＨＰ】https://www.bokusui.jp